

大学卒社員の役割の多様化に関する調査報告書 ～大学卒社員の現業部門への進出～

＜本調査のお問合せ先＞
会員サービスグループ 荒尾
名古屋市中区栄 2-10-19
会議所ビル 7 階
Tel 052-221-1931
Fax 052-221-1935

愛知県経営者協会（会長：山田 隆哉 ㈱ジェイテクト相談役）は、「大学卒社員の役割の多様化に関する調査報告書～大学卒社員の現業部門への進出～」（A4 版 50 頁）を下記の通り発行しましたので、お知らせ致します。

当報告書は本日、会員企業などの関係先へ配布しております。また、希望者には 1 部 1,000 円/送料別で販売致します。本会会員サービスグループ（TEL：052-221-1931）までお問い合わせください。

1. 発行の背景と目的

（1）背景

近年の大学進学率の上昇に伴い、大学卒業者が企業の新卒採用に占める比重は高まっている一方、高校卒での就業者は減少しており、従来の学歴による職務・役割の区分の見直しを始める企業が出てきている。その代表的な例として、これまで主として高校卒社員が従事していた現業業務に大学卒社員が従事するケースがある。

また、大学卒社員の役割の変容についての調査・研究は、一部の大学等では既に行われているが、人事労務関連の団体ではあまり行われておらず、企業にとって参考となる資料が少ない

（2）目的

本調査報告書は、現業に従事する大学卒社員（以下、「現業大学卒社員」という）を中心に取上げ、社会的背景の分析・活用状況の調査結果・企業の活用事例という 3 つの内容を元に、現業大学卒社員の活用の現状を明らかにする。現業大学卒社員を活用している企業、活用を予定している企業が人事施策を考える上での参考として使用されることを目的とする。

2. 本書の内容

（1）企業と大学卒社員を取り巻く環境（第 1 章）

①労働市場の変化 <P4>

高学歴化：1998 年に新規就職者数の大学卒が高校卒を上回る。大学進学率は 2011 年時点で 56.7%
大学生の学力低下：大学入学のハードルの下降による。入社する人材の学力も低下傾向。

②産業構造の変化 <P7>

質の変化：自動化・省力化の進展、消費者ニーズの多様化、単純行程の海外移転
就業者数の変化：1980 年以降「専門的・技術的職業」「サービス職業」の就業者が増加、「生産工程・労務作業」の就業者が減少

③大学卒社員の職種別就業者数 <P9>

25 歳～29 歳の大学卒業者の職種別就業者数は、1990 年以降「生産工程・労務作業」が増加。

（2）大学卒社員の役割の多様化に関する調査結果（第 2 章）

①調査概要

調査期間：平成 23 年 4 月～5 月 回答企業：会員企業 951 社中 183 社（回答率 19.2%）

②主な調査結果

- ・現業大学卒社員がいる企業は 60.1% <P12>
- ・大学卒社員のうち現業大学卒社員の比率は、「10%未満」という企業が 63.6%で最多 <P12>
- ・現業大学卒社員の活用を始めた時期は、「1990 年以前」(50.0%)、「91～05 年」(36.3%)、「06 年以降」(11.8%) <P14>
- ・10 年前と比較して現業大学卒社員の比率が増加した企業が 52.7%。増加した理由は、「業務の高度化」が 37.9%で最多 <P14>
- ・現業大学卒社員を活用することのメリットは「業務の質の向上」(58.2%)、「異動の幅の増加」(45.2%)が多かった <P15>
- ・デメリットは「処遇面の不満が出やすい」(29.1%)、「離職率上昇」(12.7%)が多かった <P16>
- ・今後の増減見込みは、「不明」(47.3%)、「減少」(29.1%)、「増加」(19.1%)であった <P16>

(3) 現業大学卒社員の活用事例 (第3章、第4章)

現業大学卒社員を活用している企業8社の人事担当者から匿名での掲載を条件に聞き取り調査を行い、現業大学卒社員の活用の背景、施策などを紹介。以下は主な内容の抜粋。

①活用の背景

- ・現業職の中途採用に応募する大学既卒者が増加 <E社、他>
- ・現業での製造作業において「カン・コツ」よりも技術の体系的な知識が必要となった <D社>
- ・製造・販売の現場を熟知した管理職を育成するため <C社、他>

②-1 現業大学卒社員の決定方法

- ・「現業職」として新卒で採用している <A社、他>
- ・適性・希望をふまえて人事異動で決定する <B社、他>

②-2 現業大学卒社員の活性化のための取組み

- ・定期的に集合研修を実施して、期待する役割の意識付けを行っている <A社、他>
- ・職種転換制度を設けて、優秀な社員は総合職に転換し、更なるキャリアアップを図ることができるようにしている <E社、他>

③現業大学卒社員の活用による変化

- ・大学時代の経験・知識を活かすことができる職場で生産性が向上した <C社>

④現業大学卒社員の活用における課題

- ・現業部門で長く働く大学卒社員が現状に甘んじてしまい、向上心が失われることがある <C社>
- ・入社直後は、同年齢の高校卒社員に仕事の面で劣ることが多いにもかかわらず、処遇は大学卒社員の方が高いことがあり、高校卒社員との関係にあつれきが生じることがある <B社>

(4) 総括 (第4章)

調査の結果、企業が現業大学卒社員を活用する背景には、少子化・高学歴化といった社会的背景に加え、業務の高度化や現業部門強化といった企業の競争環境の変化が存在することが分かった。現業大学卒社員の活用は、企業がこうした環境下で生き残るための1つの対応策と言える。

現業大学卒社員を活用することで、縮小する高校卒採用市場の補填や現業の業務レベルの向上といった効果が見られる一方、他の社員との摩擦や本人たちのモチベーション低下などの課題も存在する。

以上